

安重根

JJ1SXA/池

11月18日(2013年)韓国の朴大統領は、韓国を訪問している中国の楊外交担当国務委員とソウルで会談し、初代韓国統監を務めた伊藤博文を殺害した「安重根」をたたえる石碑を殺害現場の中国・ハルビン駅に建立する計画について、中韓間で、うまく進んでいるとして謝意を示した。

朴大統領は6月に訪中した際、習近平国家主席に安重根の石碑を建てたいとして協力を要請し、その直後には1940年代に日本統治に抵抗した朝鮮人らの拠点があった西安を訪問し、地元の共産党幹部に対して記念碑建立の許可を出すよう要請している。

2006年に韓国人によってハルビン市に4.5mの安重根の銅像が建設されたが、「外国人の銅像建設は認めない」として当局により撤去されたという経緯がある。

日本外交筋は石碑の建立をめぐることは、国内にウイグルなど少数民族の独立問題を抱える中国にとって「テロリストによる破壊活動を称賛することになる」として、推進は疑問とする見方もある、半面、実際に建立されれば、提案した朴大統領の強固な反日姿勢が一層明確になり、日本側からの反発が強まることは必至であると見ていた。

安倍総理は7月のTV出演で、碑設置の動きについて「伊藤博文は初代の日本の総理大臣だ、お互いにしっかりと尊重しあうべきだ」と述べていたが、菅官房長官は、19日の記者会見で「我が国は、安重根は犯罪者と韓国政府に伝えてきている、このような動きは日韓関係のためにはならない」と述べ、強い不快感を示した。

これに対し、韓国政府は、早速いちゃもんをつけているが、日本に対する宣戦布告の態度がより鮮明になってきた感が強い。

韓国は安重根は、抗日闘争の英雄と評価され、「義士」と称され、国民的英雄であるとしているが、北朝鮮は、朝鮮民主主義人民共和国においては、安重根の救国の意志は認めるものの、その手段としての「暗殺」は評価しないとしている、この件では、韓国より北朝鮮の方がまともだ。

日本では、伊藤博文は韓国を日本の被保護国に留めることを志向し、日韓併合に慎重な立場であったため、伊藤の暗殺は逆に併合を加速させることになったとして、安重根は「先の見えないテロリスト」と評されている。

アルカイダによる、米国の旅客機を乗っ取っての自爆テロも、彼等にとっては、ジハードの戦士として命を投げ打った立派な行為で、英雄だろうが、しかし国際社会では、彼等を、義士・英雄と言う国は何処にも無い、安重根や尹奉吉(上海で日本人要人を爆弾で死傷させた)等、他国の要人を殺害したテロリストを、自国内で英雄とするのは勝手だが、テロを容認し、これを世界に広めようとする韓国の行為は、日本は勿論、国際社会は決して許すべきでは無いと思う。

(21,Nov,2013 記)